

# 高山市における 見守り・支援の担い手の現状と課題

日本福祉大学社会福祉学部

二村央佑 樋浦伶 莫易欽 松原七海

他8名

# 1. 研究の目的

- ▶ 一人暮らし高齢者などの孤立が課題となっている
- ▶ covid-19によって、より深刻化している
- ▶ 孤立の防止には、地域住民による見守り・支援が重要  
→住民による見守り・支援の実態と課題を把握し、活動に取り組む住民を支援するための体制づくりを考えることを目的とする

## 2. 研究の方法

- ▶ 花里地区、高根地区のまちづくり協議会、民生委員、見守り推進委員へのグループインタビュー
- ▶ 実施日 10月3日(月) 10月17日(月)

### 3. 調査結果

#### 対象地域の概況

▶ 高根地区：人口283人 高齢者数193人

高齢化率68.2%

民生委員6人 見守り推進委員11人

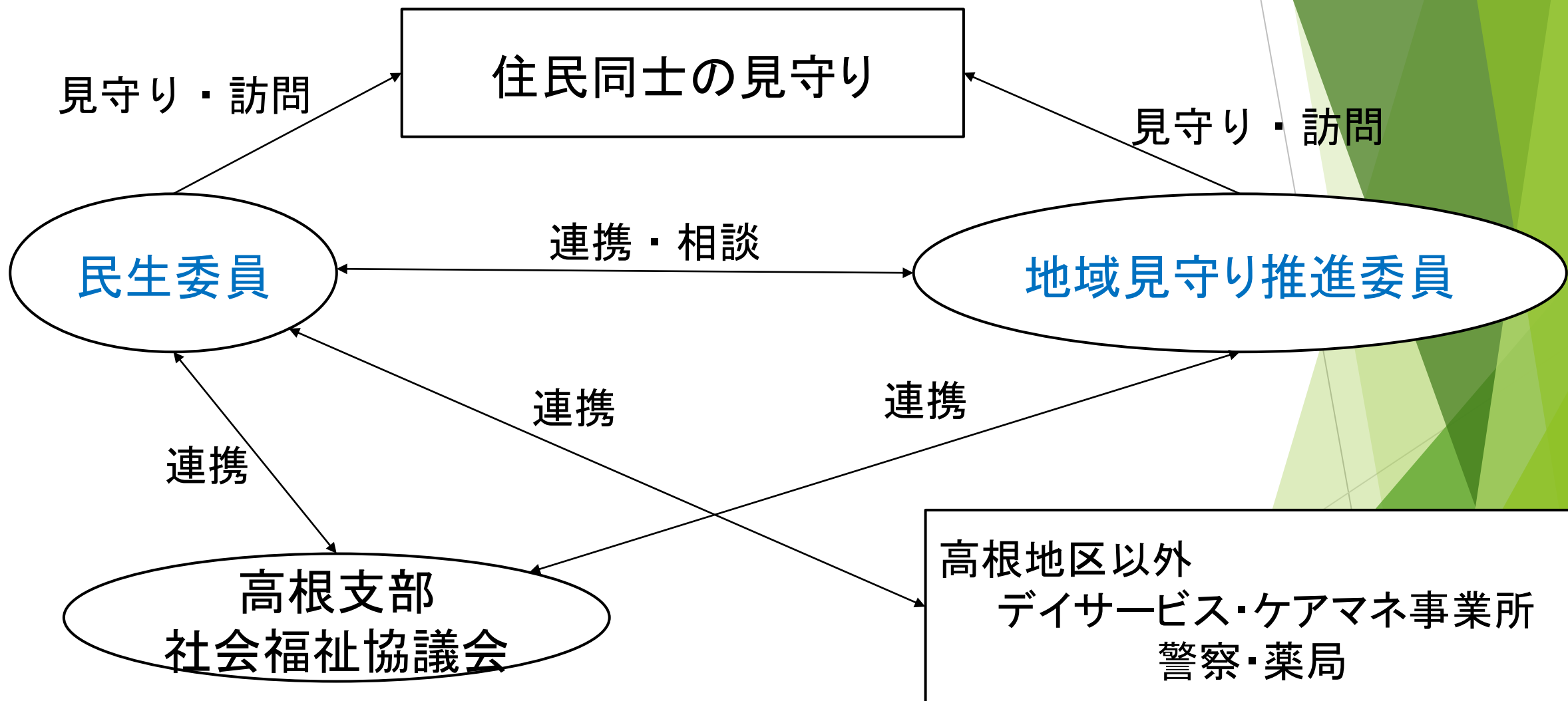
▶ 花里地区：人口5,179人 高齢者数1,734人

高齢化率33.4%

民生委員13人 見守り推進委員12人

# 高根地区

# 高根地区の連携図



# 日常生活の見守り支援

- ▶ 日常の回覧板などでの訪問，声掛け
- ▶ 民生委員が家に訪問し家の中の様子や本人の様子を観察する

★毎日のように顔を合わせコミュニケーションを図っている

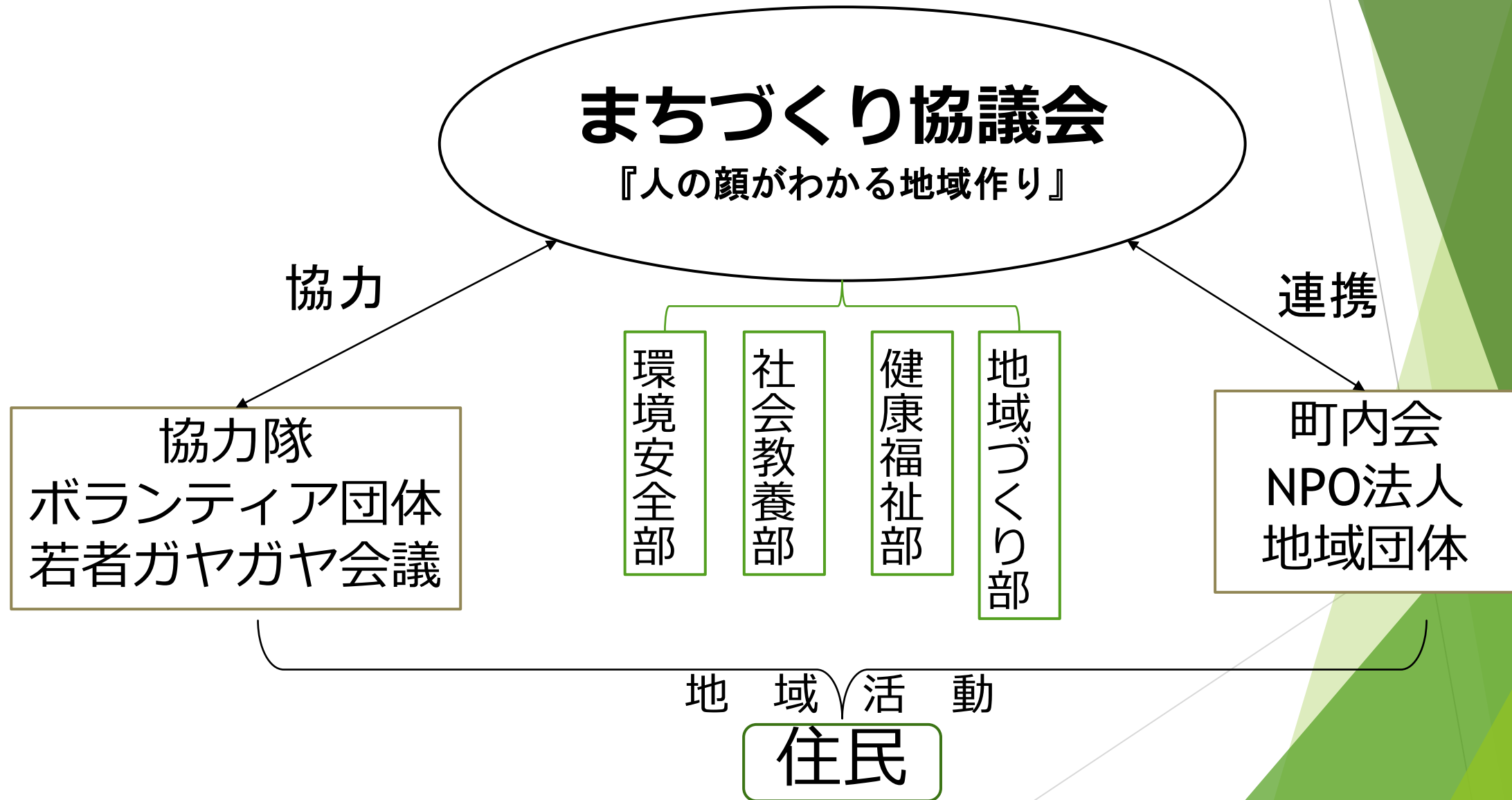
## コロナの状況

- ▶ 年3回ほど祭りを行っていたが、今は年1回しかできておらず今までの行事が中止・延期
- ▶ 住民同士のコミュニケーションの取り方も変化しており、対面でしてきたことがzoomや電話に置き換わっている

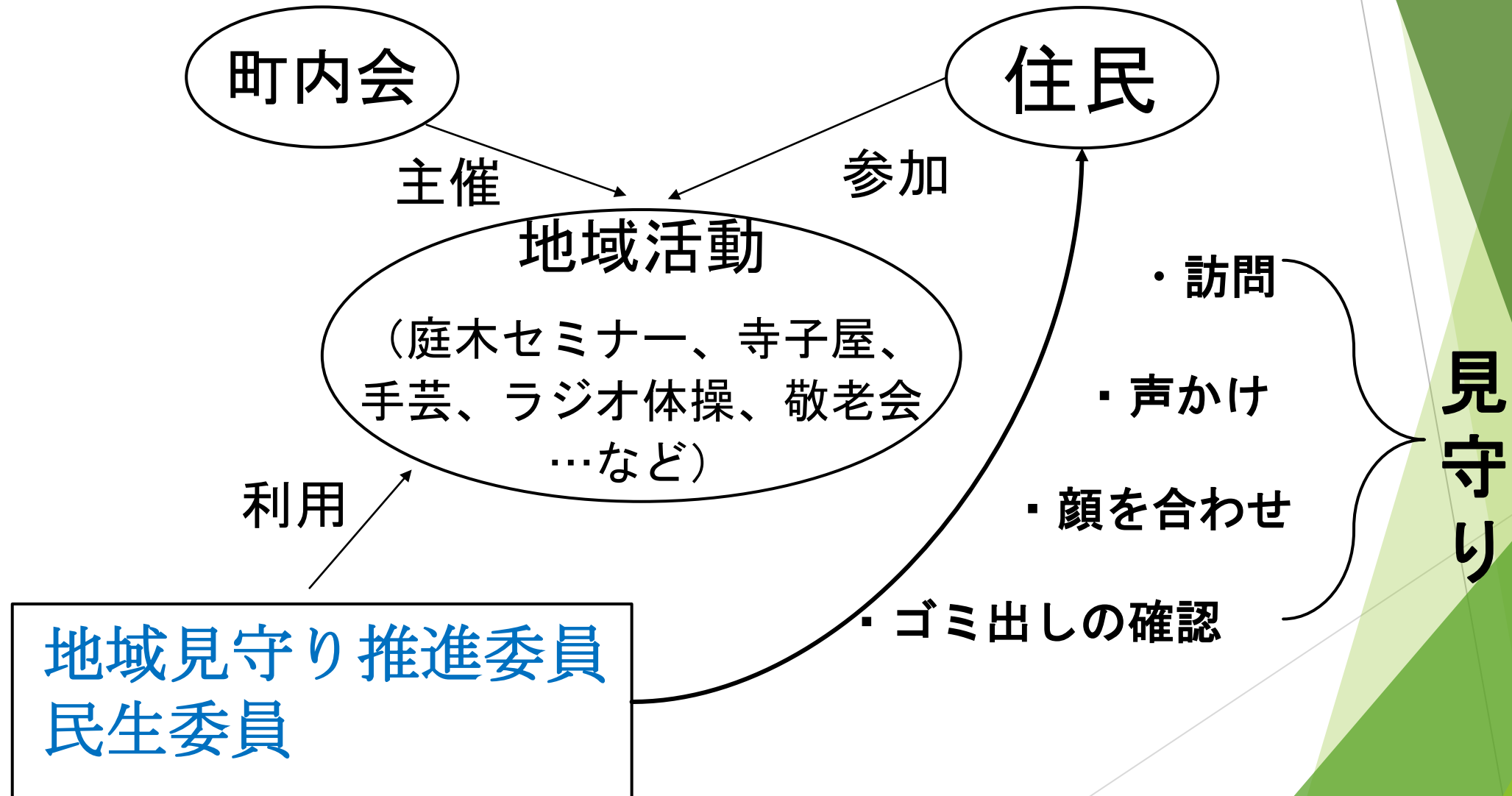


# 花里地区

# 花里まちづくり協議会主導連携図



# 花里見守り活動



# 真心のバトン

- ▶「真心のバトン」とは家族の連絡先や医療情報（既往歴、アレルギー、服用薬など）を記録し、保管しておくためのセット
- ▶全ての世帯が対象である
- ▶活用方法



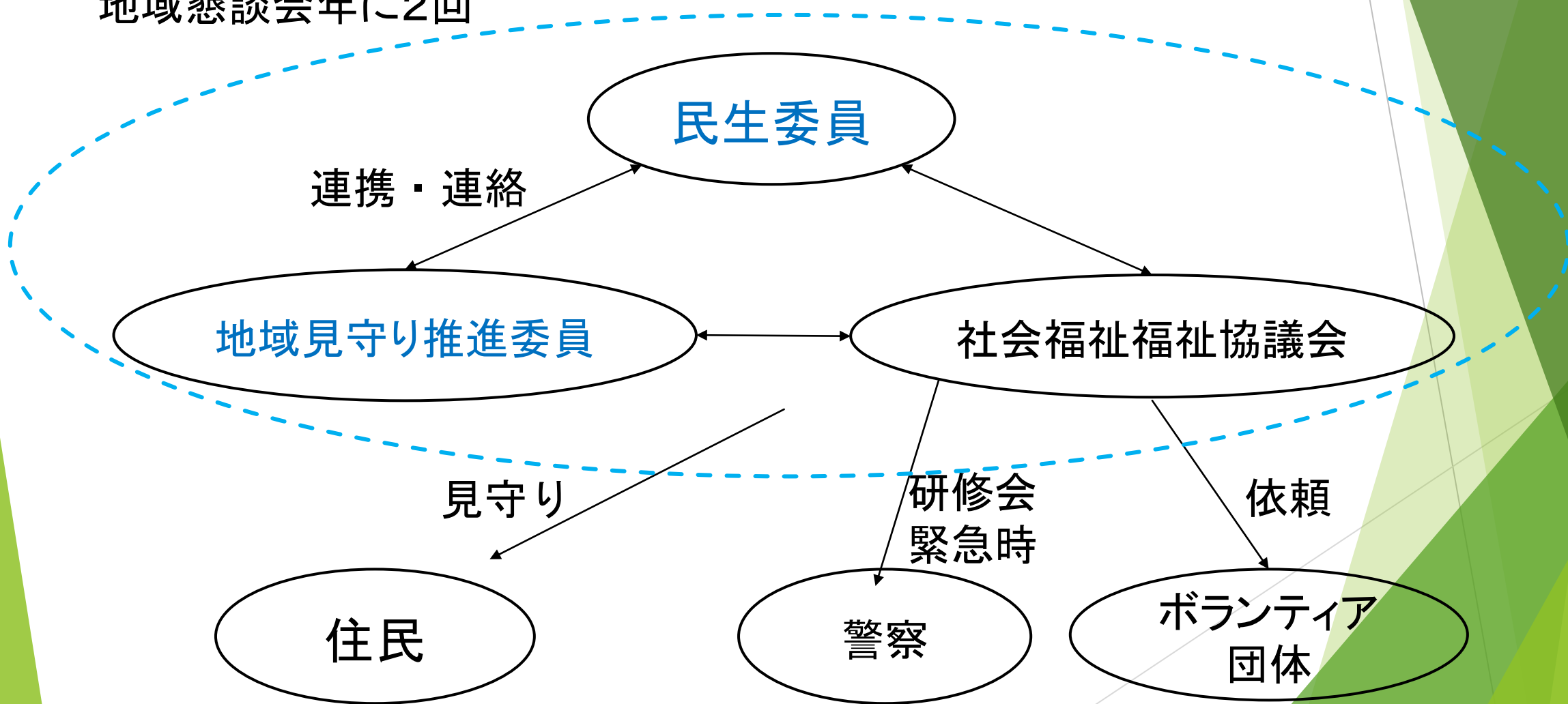
# コロナの影響

- ▶ 地域活動の中止
- ▶ 住民が交流する機会の減少
- ▶ 見守り活動の仕方の変化

# 高山市社会福祉協議会

# 高山市社会福祉協議会の連携図

地域懇談会年に2回



# 命のボタン

- ▶ 1人暮らし高齢者、障害のある方が対象
- ▶ 緊急時、迅速に情報が伝わるように自分の情報を入れておく
- ▶ ボタンは冷蔵庫に保管
- ▶ 玄関と冷蔵庫にシンボルマークを貼っている



# 社協の役割

市民と機関を繋げる役割  
＝社協は基盤を作る機関

地域の声に耳を傾け  
ニーズを拾い上げる



# 考察

# 高根地区

- ▶ 高齢化率が高い 「顔の見える関係」づくり  
→ 孤立化を防ぐ
- ▶ 地域住民との関わりの減少
- ▶ コロナによる影響 行事の延期・中止  
→ 地域住民との関わりの減少
- ★ 日頃の顔の見える関係の継続
- ★ 行事や関わりを持てるような支援づくり

# 花里地区

- ▶ 人口が高根地区と比べて多い
- ▶ 行動している範囲での関わりが多い
- ▶ 高根地区の顔の見える関係と比べ、支援は全ての人に行き届いていない現状がある
  - 住民同士の関わりの強さが関係している
  - 見守り推進員が人口割合に対して不足している

# 改善案

1. 社会福祉協議会が地域主体となつて、繋がりが希薄にならないように基盤を作っていく
2. 見守り推進員を増加させる他、見守り推進員を順番に行うなど住民同士や地域と関わることができる機会を設定する

# 高山市社会福祉協議会

- ▶ 地域格差への対応
  - 地区同士の情報共有
- ▶ コロナ対応 地域の繋がりが希薄化
  - 地域主体になり基盤を作る
  - 行事が行えるような体制づくり

ご静聴ありがとうございました